

今冬の需給見通しについて

【今冬の需給見通し】

本年、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、多くの発電所が停止した中で、今夏の節電について、広く社会の皆さまよりご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。当社はこのたび、今冬の需給見通しを取りまとめましたのでお知らせいたします。

今冬につきましては、定期検査に入る予定の柏崎刈羽原子力発電所5号機などの減少要因があるものの、一方で、地震により被災した共同火力の一部運転開始などの増加要因を織り込んだ結果、5,490万kW（12月末）、5,460万kW（1月末）、5,370万kW（2月末）の供給力を確保できる見通しとなりました。

なお、これは、昨年冬期の最大電力である5,150万kWに対して220~340万kW程度の供給予備力を確保できることとなります。

<各月の需給見通し>

	(万kW)		
	12月末	1月末	2月末
需要（発電端1日最大）※1	5,150	5,150	5,150
供給力	5,490	5,460	5,370
予備力	340	310	220

<各月の供給力内訳>

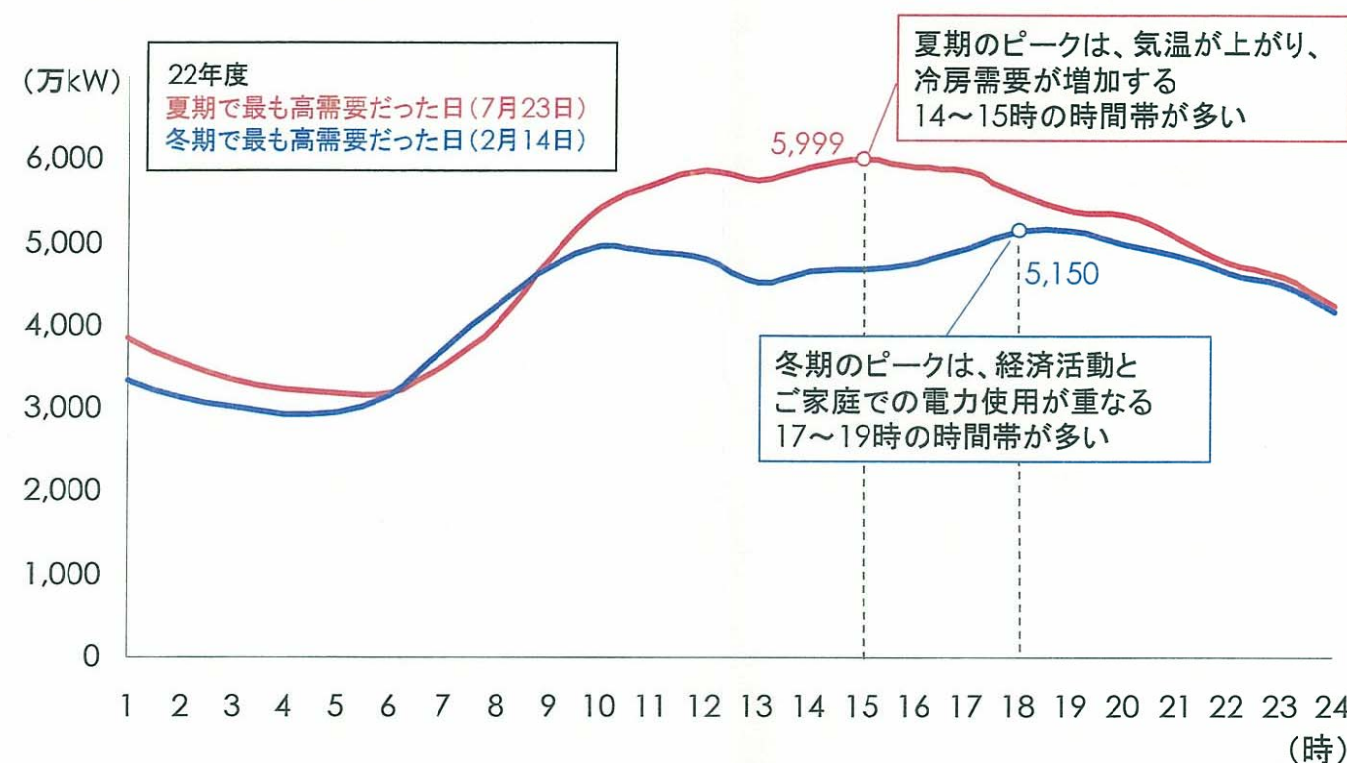
		(万kW)			
		(参考) 8月末※2	12月末	1月末	2月末
設備別 (自社+他社)	一般水力	310	230	220	200
	揚水式水力	700	800	800	800
	火力※3 (160)	4,280 (160)	4,210 (130)	4,300 (140)	4,230 (130)
	原子力	250	250	140	140
融通		40	0	0	0
合計		5,580	5,490	5,460	5,370

上記のとおり、今冬は安定供給を確保できる見通しですが、電源の計画外停止や急激な気温の変化による需要増加の可能性もあることから、お客さまにおかれましては、無理のない範囲での節電へのご協力をお願いいたします。

当社は、引き続き計画停電の「原則不実施」を継続するために、供給力を着実に確保するとともに、電力設備の確実な運転・保守に努めてまいります。

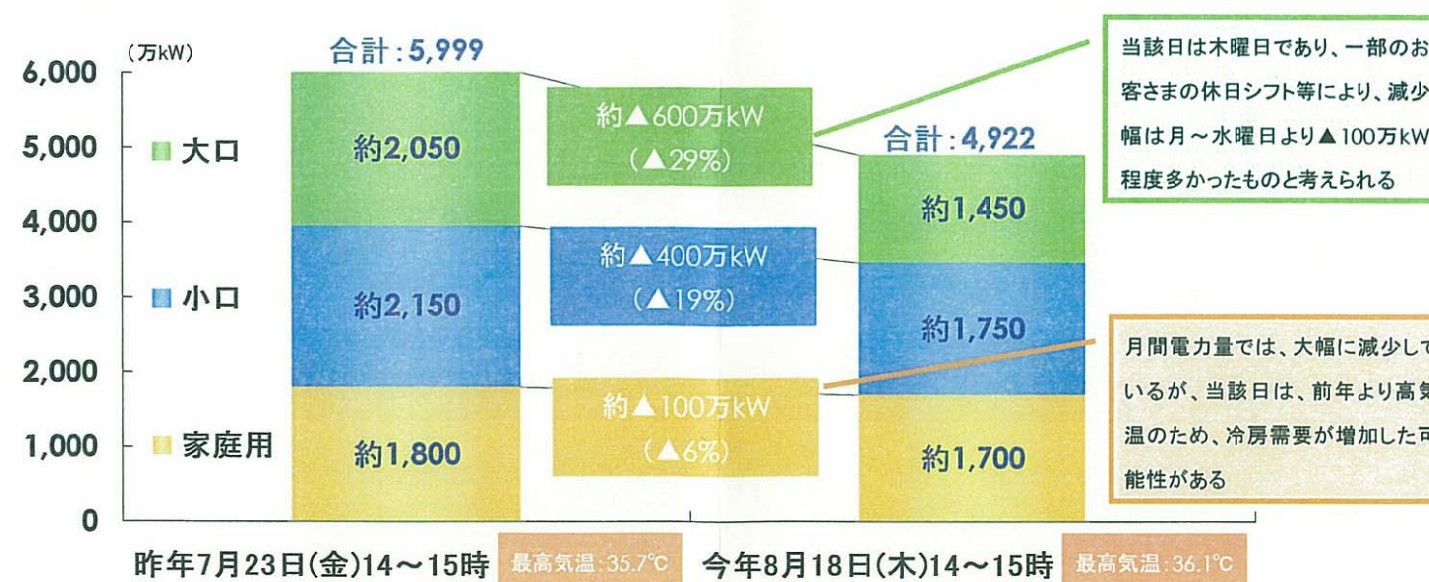
- ※1 需要は平成22年度実績（平成23年2月14日）
- ※2 平成23年8月19日プレス発表時の8月末供給力
- ※3 火力は「自家発電余剰購入等」の内訳を（）に再掲

【冬期における電力需要の特徴】



<参考>今夏の最大電力発生日の節電効果の内訳試算

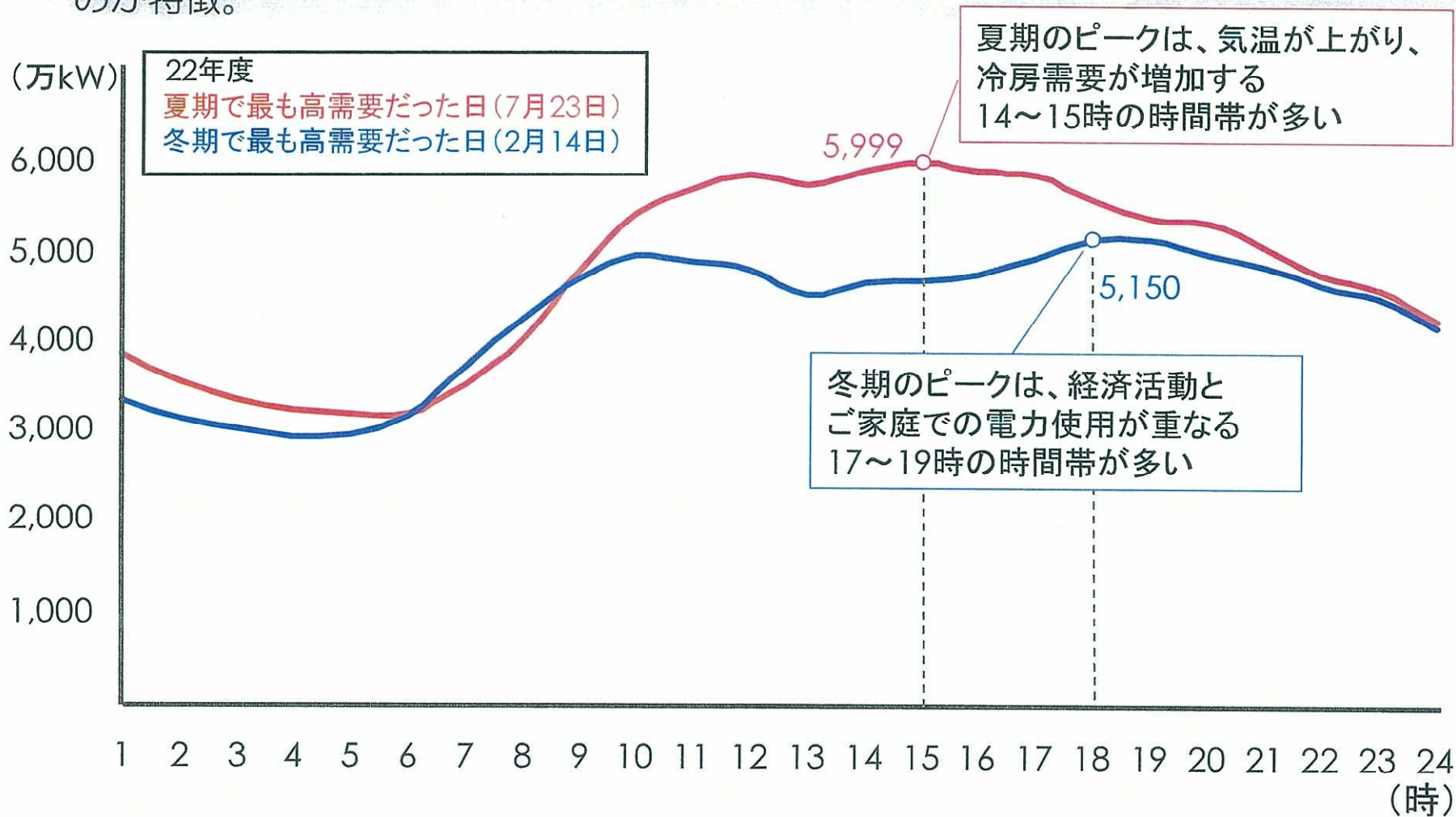
- ・今夏の最大電力は、大口・小口・家庭用ともに昨年から減少（全体で▲1,077万kW、▲18%）
- ・特に、大口のお客さまは、▲600万kW程度の減少が見られたものと試算。



(注) 大口のお客さまは、実際に採録した毎時間実績を集計（一部推計）。小口（高圧）のお客さまは、毎時間実績を採録していないことから、月間の契約電力・販売電力量実績を大口のお客さまと比較し、その使用率格差を用いて推計。小口（低圧）・家庭用のお客さまも、毎時間実績を採録していないことから、全体の減少量からの残りを、月間販売電力量の比に応じて算出。

冬期の電力需要の特徴

- 冬期の電力需要のピークは、経済活動とご家庭での電力使用が重なる17～19時頃にピークを迎えることが多い
- また、夏期と比較して、昼夜の差が小さく、比較的フラットな需要カーブとなるのが特徴。



<出典> 第4回 エネルギー・環境会議 第3回電力需給に関する検討会合（平成23年11月1日）
資料3 今冬の需給対策について(案)・・・別紙1より引用

(別紙1)

今冬の需給バランス

12月	(万kW)	北海道	東北	東京	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	東3社	中西6社	9電力
	供給－需要 (予備率)	52 (9.0%)	▲71 (▲5.3%)	344 (6.7%)	153 (6.8%)	14 (0.5%)	39 (7.6%)	52 (5.1%)	17 (3.3%)	▲19 (▲1.3%)	325 (4.6%)	256 (3.1%)	581 (3.8%)
最大電力需要	575	1,350	5,150	2,234	2,549	509	1,018	520	1,482	7,075	8,312	15,387	
供給力	627	1,279	5,494	2,387	2,563	548	1,070	537	1,463	7,400	8,568	15,968	

1月	(万kW)	北海道	東北	東京	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	東3社	中西6社	9電力
	供給－需要 (予備率)	71 (12.3%)	▲48 (▲3.4%)	307 (6.0%)	145 (6.2%)	▲188 (▲7.1%)	33 (6.2%)	72 (6.7%)	24 (4.6%)	▲34 (▲2.2%)	330 (4.6%)	52 (0.6%)	382 (2.4%)
最大電力需要	579	1,390	5,150	2,342	2,665	528	1,074	520	1,533	7,119	8,662	15,781	
供給力	650	1,342	5,457	2,487	2,477	561	1,146	544	1,499	7,449	8,714	16,163	

2月	(万kW)	北海道	東北	東京	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	東3社	中西6社	9電力
	供給－需要 (予備率)	86 (15.3%)	▲6 (▲0.5%)	225 (4.4%)	145 (6.2%)	▲253 (▲9.5%)	31 (5.9%)	72 (6.7%)	11 (2.1%)	32 (2.2%)	305 (4.3%)	38 (0.4%)	343 (2.2%)
最大電力需要	563	1,370	5,150	2,342	2,665	528	1,074	520	1,474	7,083	8,603	15,686	
供給力	649	1,364	5,375	2,487	2,412	559	1,146	531	1,506	7,388	8,641	16,029	

3月	(万kW)	北海道	東北	東京	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	東3社	中西6社	9電力
	供給－需要 (予備率)	36 (6.7%)	87 (6.9%)	182 (3.6%)	168 (7.7%)	▲194 (▲7.9%)	37 (7.5%)	99 (10.0%)	61 (13.0%)	60 (4.4%)	305 (4.5%)	230 (2.9%)	535 (3.6%)
最大電力需要	545	1,270	5,023	2,175	2,459	496	984	469	1,377	6,838	7,960	14,798	
供給力	581	1,357	5,205	2,343	2,265	533	1,083	530	1,437	7,143	8,190	15,333	

※ 最大電力需要については東北電力管内は震災の影響を考慮した見通し。東京電力管内は平成22年度冬ピーク実績をベースに定めたもの。
他の電力管内は平成22年度冬ピーク実績又は各社の平成23年度冬ピーク見通しのいずれか高い方で想定。

＜出典＞第4回 エネルギー・環境会議 第3回電力需給に関する検討会合（平成23年11月1日）
資料4 エネルギー需給安定行動計画(案)について… 資料4－別添1. 7頁より引用

なお、需給動向については今後も変化すると見込まれるが、これらの追加供給対策後の現時点において想定される来夏の需給見通しについては以下のとおり。

	(万kW)	北海道	東北	東京	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	東3社	中西6社	9電力
8月	供給－需要 (予備率)	▲33 (▲6.6%)	▲28 (▲1.9%)	▲294 (▲4.9%)	7 (0.3%)	▲785 (▲25.0%)	12 (2.0%)	73 (6.1%)	▲49 (▲8.2%)	▲162 (▲9.3%)	▲356 (▲4.4%)	▲905 (▲9.1%)	▲1,261 (▲7.0%)
	最大電力需要	506	1,490	6,000	2,709	3,138	573	1,201	597	1,750	7,996	9,968	17,964
	供給力	473	1,462	5,706	2,716	2,353	585	1,274	547	1,588	7,640	9,063	16,703

※1 最大電力需要については昨年並の猛暑を想定。ただし、東北管内においては震災からの復興需要を考慮。

※2 これらの供給力強化以外に、緊急設置電源の新設等、更なる増強の可能性あり(+13万kW)。

注1) 夜間融通等の受電不足に伴う揚水汲み上げ電力不足により、東京▲100万kW、関西▲78万kWの可能性あり。

注2) 燃料調達に係る輸送力等の制約による石油火力及び揚水供給力減(九州▲337万kW)のおそれあり。

注3) 長期停止火力の復帰の遅れの可能性あり(関西▲45万kW) (合計▲560万kW)

- ・供給力については、電力会社による供給力の積み増しなどを更に追求しつつ、来春を目途にレビューを行うこととする。

今冬の需給見通しについて

平成23年11月
東京電力株式会社

本年、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、多くの発電所が停止した中で、今夏の節電について、広く社会の皆さまよりご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

当社はこのたび、今冬の需給見通しを取りまとめましたのでお知らせいたします。

今冬につきましては、定期検査に入る予定の柏崎刈羽原子力発電所5号機などの減少要因があるものの、一方で、地震により被災した共同火力の一部運転開始などの増加要因を織り込んだ結果、5,490万kW（12月末）、5,460万kW（1月末）、5,370万kW（2月末）の供給力を確保できる見通しとなりました。

なお、これは、昨年冬期の最大電力である5,150万kWに対して220～340万kW程度の供給予備力を確保できることとなります。

< 各月の需給見通し >

〈万kW〉

	12月末	1月末	2月末
需要(発電端1日最大)※	5,150	5,150	5,150
供給力	5,490	5,460	5,370
予備力	340	310	220

※需要はH22年度実績(平成23年2月14日)

上記のとおり、今冬は安定供給を確保できる見通しですが、電源の計画外停止や急激な気温の変化による需要増加の可能性もあることから、お客さまにおかれましては、無理のない範囲での節電へのご協力をお願いいたします。

当社は、引き続き計画停電の「原則不実施」を継続するために、供給力を着実に確保するとともに、電力設備の確実な運転・保守に努めてまいります。

以上

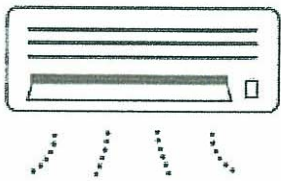

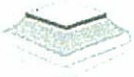
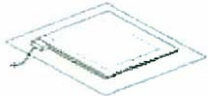

冬の「電気の手順な使い方」

この夏の節電へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

この冬は、電力の安定供給を確保できる見通しですが、電気を効率よくお使いいただくためのご家庭や企業などにおける省エネのポイントをご紹介します。

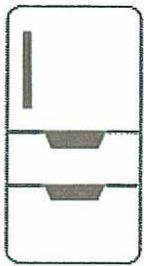
ご家庭のお客さまへ

暖房機器は、エアコン、こたつ、電気カーペット、電気ストーブなど種類によって暖まり方が違います。寒い冬を暖かく過ごすために、機器を上手に選んでお使いいただきますようお願いいたします。

暖房機器	特徴	省エネのポイント
<p>エアコン</p> 	<p>部屋全体を効率的に暖めるには、エアコンが最適です。</p>	<p>フィルターの掃除はこまめに フィルターは、2週間に一度を目安に清掃すると、ホコリの目詰まりによる暖房能力の低下を防ぐことができます。 ※自動清掃機能が付いているタイプはこの機能を利用しましょう。</p> <p>カーテンやブラインドなどで冷気の進入をカット 日射がない時間に部屋を暖める場合は、カーテンやブラインドを閉めて窓から冷気が入ってくるのを防ぎと省エネになります。</p> <p>風向きは下向きに 暖かい空気は上昇するため、効率よく部屋を暖めるにはエアコンの風向きを下向きにしましょう。また、扇風機やサーキュレーターで天井にたまりがちな暖気を循環させるとより効率的です。</p> 
<p>こたつ</p> 	<p>足元全体が暖まります。</p>	<p>機器本体と床との間に敷物を こたつの掛け布団は2枚に 機器本体の下に断熱効果のあるマットなどを敷くと、熱が床下に逃げにくくなり、省エネになります。また、こたつは掛け布団を2枚にすることで、保温効果を高め、設定温度を低めにしても暖かく感じられます。</p>
<p>電気カーペット</p> 	<p>接触した部分から熱が伝わり、部屋の広さ・使い方にあわせて大きさが選べます。</p>	
<p>電気ストーブなど</p> 	<p>速暖性があり、温風暖房や輻射暖房など種類が多く、用途に応じて選べます。</p>	<p>機器を上手に選んで必要な暖かさを 電気ストーブ、パネルヒーター、ハロゲンヒーターなどは、短時間使用する寒い脱衣所やトイレなど、部分的に暖めたい時に活用することをおすすめします。</p>

その他の機器も、使い方や選び方の工夫で省エネにつながります。

冷蔵庫



設定温度の再確認を

食品の入れ具合に応じて、冷蔵庫が冷え過ぎと感じた場合には設定温度を「弱」にすることで省エネになります。

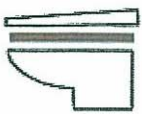
扉の開閉は短く少なく

普段から冷蔵庫の中は整理整頓しておき、ムダな開閉を減らすと省エネになります。

できるだけ放熱スペースを

冷蔵庫まわりのすき間を多くすると消費電力量が少なくなります。特に冷蔵庫の上に物は置かず、上部を開放すると省エネになります。

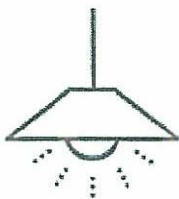
温水洗浄便座



フタを閉める

使用後にフタを閉めると暖房している便座からの放熱が抑えられるので、省エネになります。

照明



電球の取り替え時には省エネ性の高いランプを

白熱電球から電球形蛍光ランプや電球形LEDランプに取り替えると省エネになります。

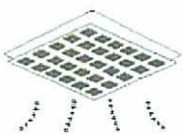
※電球形LEDランプは、ランプによって光の拡がりに違いがありますので、パッケージ表示を確認して使用目的に応じて適切に選びましょう。

調光機能を使う

調光機能がついているタイプは、必要な明るさに調節することをおすすめします。

ビル・工場などのお客さまへ

空調

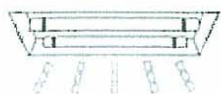


設定温度の調整を

適正な温度設定による空調をおすすめします。

また、使用していないエリアの空調を停止すると省エネになります。

照明



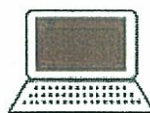
使用しないエリアは消灯を

使用しないエリアの間引き・消灯を行うと省エネになります。

照明の取り替え時には省エネ型を

省エネ型蛍光灯やLED照明などへ取り替えると省エネになります。

パソコン



電源設定の見直し

一定時間使用しない場合は、「システムスタンバイ」が適用されるような設定にしておくと、メモリー以外の機能が全てスリープ状態となり省エネになります。

※本資料の省エネ効果は条件によって異なる場合があります。

省エネに関する情報はホームページでもご紹介しています。<http://www.tepco.co.jp/setsuden/>

©東京電力(平成23年11月)